



KK英語塾

第1回

*大学入試英作文

日本文の下線部のみを英訳する形式の英作文は、以前と比べてずいぶん減ってきました。もう私立大学の入試英語ではあまり見かけません。しかし、国公立大の二次試験ではまだ出題されます。それは、一つには、書かせれば英語の実力がすぐに分かるからです。ですから、難関校ではまだまだ出題されます。さて、今回トライするのは2022年に大阪公立大学で出題された問題です。

問題（大阪公立大学 2022年）

4 次の下線部の内容を英語で表現せよ。（30点）

高い知性を持っているチンパンジーやボノボ(bonobo)でもことばは歯が立ちません。ことばという思考を支え、伝達手段ともなりうる力を手に入れ、他の動物をはるかに凌駕（りょうが）する文化を構築し、さらには文字という記録手段によって文化の伝播（でんぱん）も可能にしました。子供たちは、まず、言葉は人間だけに与えられた宝物であることを認識してほしいと思います。・・・（出典：大津由紀雄、浦谷淳子、・・・）

▷典型的な下線部英訳問題です。出典は、大津由紀雄氏その他による本（「日本語からはじめる小学校英語（開拓社）2019年」）で、そこからの抜粋です。日本語の文章の一部を抜粋して、そこを英訳しなさいというのは、実はあまりいい問題とは言えません。なぜかと言えば、本の全体の流れが分からないと、部分を英訳しにくい場合があるからです。この問題もややその類と言えます（特に、下線部の第一の文から第二の文への流れ）。また、日本語の文章の作者は誰でも、自分が書いたものが大学入試の英作文の問題に使用されるとっては書きませんから、そのような作者の日本語の文章を、高校生の英語力をみる文章として使うのは適正に欠けることがあります。しかし、そんなことを言ってもどうにもなりません。皆さんとしては、やるしかないですね。

まあそれにしても、受験する生徒は英訳のプロではないのですから、あくまで高校生レベルの英作文を目指せばよいです。それには、細かいことをあまり気にせず、骨組みの内容を英語で伝えることがコツです。その際、一文一事とするのが原則です。これは、私ではなく、昭和の英文学者の行方昭夫氏(1931~)が言っていることです。くねくねした長い日本語を、いくつかの文に切るのです（日本語がどうしてくねくねするのかは、「英語のハナシ第三回」を参照）。一つのことを一つの英文で表すということにします。その方が訳しやすいはずです。

では、この問題の日本語をどうすればよいのか、まずそれを考えてみましょう。与えられた日本語を、できるだけ英語で表現しやすい日本語に直します。まず、第一の日本語は、

・[チンパンジーやボノボは高い知性を持っている][しかし、(私たち人間のようには)言葉を話すことができない]

と紐解きます。「持つ」、「する」のパターンに変換します。こうすれば、英語に直しやすくなります。「AはBを持つ。しかしCすることはできない」のパターンにします。日本語で「歯が立たない」といいますが、英語ではこの意味で「歯(tooth, teeth)」を使った表現はないと思います。イディオムの‘no match for…’を、よく参考書では「歯が立たない」と訳していますが、(例えば、“”I am no match for him in tennis. 「私はテニスじゃ彼に歯が立ちません」)、この‘match’は、「対等の相手、好敵手」の意ですので、ここで使うには注意が必要です。さて、そうすれば最初の文は、

Chimpanzees and bonobos have high intelligence, but they cannot speak a language.

となります。どうですか、これなら書けるでしょう。‘…, but they don’t have (a) language’も可能です。学校で習うSVOのパターンです。実は、英語はこのパターンが基本です。「する」、「される」の因果関係がハッキリする場合が多いからです。ですから、まずSVO「誰が～する～を」のパターンで考えることを勧めます。

ちょっと横道にそれます。SVOの文型について、同時通訳の草分けで、「同時通訳の神様」と呼ばれた國弘正雄氏(1930~2014)が、著書の中にこのように言っています(著書名を忘れました)。

『昔の中学は五年制でした。文法に関して印象に残っている先生が二人おられます。その一人は、亀井萬三郎というコロンビア大学を苦勞して出られた方で、この先生が教えてくれた文法は実に素朴かつおおらかなものでした。

語順一つでも<S+V+O>といった記号はおろか、<主語+動詞+目的語>といった用語すら使われなかった。「何が→どうする→何を」の一本槍です。生徒も心得たもので、「英語とは？」と先生に聞かれると、「何が・どうする・何を、です」とはじかれたように答えるのです。そうすると返ってくるのは「よっしゃー」。』(下線は著者による)

これです。これが、プロ中のプロが英語を見た目です。しかし、何とも温かい教室風景ですね。亀井先生がコロンビア大学で得た文法の結論は、英語＝「何が→どうする→何を」なのです。シンプルそのものの文法哲学です。これでいいのです。今は、いろいろありすぎなのかもしれません。要は、英米人の言語脳はSVOで基本的にセットされているということを物語っています。ですから、それを使うとnaturalでいい英文が書けるようになります。ぎこちない英文を書くよりも、naturalな英文を書けるようになる方がいいに決まっています。

さて、もどります。

▷次に続く文をどうするかです。これは、結構込み入っています。まず、上の一文一事の英語に続けるとすると、日本文は概略、骨組みだけを伝えれば、

「われわれ人間は、(チンパンジーやボノボと違い) 言葉を使って考えコミュニケーションを行い、(他の動物には作れない) 文化を作り、それを文字で記録してその文化を広める」

となります。「ことばという思考を支え、伝達手段ともなりうる力を手に入れ」には、「言葉は思考をさえる」、「言葉は伝達手段になる」が隠されています。「言葉は思考をささえる」は、「言葉で考える」ということの変化球です。「伝達手段にもなりうる」は「コミュニケーションをする」とみます。「…しうる」は、基本的に可能性ですが、日本語独特の「ぼかし表現」です。断定を避けています。現実的には「伝達手段」になっていますので、英語ではそのfactを伝えます。

さて、これを、基本動詞を使って表現すると、概略

①

Chimpanzees and bonobos have high intelligence, but they cannot speak a language. But we have speech and we can communicate. We also have culture, and our culture is far better than other animals'. We even record our culture using the writing system, and make it known to other people.

あるいは、

②

Chimpanzees and bonobos are intelligent, but they can't speak a language. Because we have language, we can think and communicate by using it. We also have culture. But other animals never have culture. We even use written words to make our culture known to other people.

となります。どうですか。「伝播する」は「他に知らしめる」でいいでしょう。これなら、高校一二年生でも十分書けるのではないですか。日本語を直訳してはませんが、これで英米人に言いたい内容はおおかた伝達できます。どうです、これで十分合格答案になると思います。ただし、これで満点取れるかどうかは、大学の採点者の判断です。採点する基準には、文法、英語らしい流れ、内容の伝達度などが考えられますが、①でも②でも合格点でしょう。

いわゆる受験業界の模範答案のように難しい単語を使って、しかも逐語訳的に表現したいのならば、重々しい英語表現を使わなければなりません。もし、それができるのなら、それでももちろんいいです。

例えば、

③

We humans have gained the power of speech which carries our thought and serves as a means of communication. We have also created culture far better than other animals and we even spread it through literal description.

となります。これはどうですか、少し長ったらしくて、いかにも銜った感じがしませんか。「思考を支え、伝達手段ともなりうる力を手に入れ」や「文化を作る」や「文化を広める」も入っています。‘have gained’と現在完了形を使ったのは、‘gain’を使ったからです。単に、“we have the power of speech”も可能です。このような銜った感じの英文を書きたいのなら、そうすればよいです。

ここで、ある出版社の解答を見てみましょう。以下の通りです。解答者は、高校生に分かりやすくするために、できるだけ直訳調で、すべての日本語を英語に入れるように工夫してあります。ただし、その分、英語としてはぎこちなくなっています。

X社解答

Even chimpanzees and bonobos with their high-level intelligence do not have language. Language supports your thought, gives you power as a means of communication, helps you build a culture that far exceeds all other living creatures, and enables you to transmit your culture by the records made with a writing system.

「…ボノボでも」の「でも」が、‘even chimpanzees and bonobos’となっています。「歯が立たない」は、単に‘have language’にしています。これはやはり直訳ができなかったのでしょうか。しかし、‘have language’はnaturalな英語で、特に問題はありません。これで十分です。続く文では、languageを主語にしています。問題文の日本語には主語が入っていませんが、「手に入れ/文化を構築した」等から考えれば、「人間」が主語なのではないかと思えますが、このへんのあやふやな感じは、日本語ならではの。ここでは「言葉」を主語にすることも「人」を主語にすることも可能でしょう。‘language’ですが、おそらく文意は「話し言葉」ということでしょうから、私なら‘language’ではなく、‘speech’を使いたくなります。「思考を支える」は‘support’を使っています。この動詞には、‘assist’や‘help’の意味があるので可能ですが、私はここでは‘carry’を使いたいです。「伝達手段になる」は、もちろん‘become’を使うこともできますが、ここは色濃く‘serve’を使いたいところです。

「文化を作る」は、‘build’や‘create’や‘shape’を使うしかありませんが、実はこの表現自体あまり英語的ではなく、やや気が引けます。‘Contemporary American English Corpus (以後、COCAにする)’や‘British National Corpus’ (以後BNC) などのコーパス(例文資料)で調べても、「文化を作る」に該当する表現はほぼゼロに近いです。理由は、おそらく文化はさまざまな雑多な部分からなる総合体ですので、全体を一つにしてまとめて作るということにはならないからだと思います。例えば、範囲を特定して、「食文化(food culture)」で検索しても、「広める」の動詞と組み合わせられた例文は、0/160です。

考えてみれば、「文化」という語自体よく使われますが、その意味はハッキリしません。ただし、日本語では、平気で「文化を作る」と言います。このような表現は、英語に直すときに注意が必要です。

‘culture’は、“… in our culture”とか、“… have an interesting culture”とか、“Japanese culture has …”のように使うのが一般的なのです。したがって、「文化を作る」は日本語的で、このまま英語に訳しても、どうしてもぎこちない英語の表現になります。

同じように、「文化を伝播する」でも同じことが言えます。‘transmit’は「信号、電波、病気」などを伝えるのがメインの用法ですので、筆者はここでは使いません。難しい語では、‘propagate’があります。‘exceed’は「数値が～超える」の意が普通の意味ですので、ここではどうでしょう。‘… build a culture that far exceeds all other living creatures’では、文化と動物自体を比べていることになり変です。問題文の「他の動物をはるかに凌駕（りょうが）する文化を構築し」では、人間の文化と動物の文化（あるとして）を比べるのではなく、意図されているのは、「人間は動物にはできないような文化を作る」の意だと考えます。ここは、問題文の日本語が悪いですね。

「文字という記録手段」は、直訳的には‘letters/writings as a means of recording’です。

以上のような点をふまえ、直訳調ではなく、意識調にすると、私なら、

③

Although the intelligence of chimpanzees and bonobos is quite high, they have no command of speech. Our speech lies at the base of our thinking, and gives us the power of communication. It also creates a culture which is far beyond the reach of other animals, and it can be propagated by the writing system.

＊「commandは「(言語を) 操る能力」、propagateは「(ニュースなどを) 広める」

あるいは、少し複雑にかっこつけて、

④

A chimpanzee and a bonobo are intelligent animals, but they are no match for us in terms of the power of speech. Our speech carries our thought, and enables us to communicate. It gives us the abilities of culture creation no other animals are endowed with. The written form of language makes it possible for culture to spread through the world.

＊in terms of … 「…の観点で」

「be endowed with …は「(才能など) に恵まれている」

さらにもっと思い切って意訳すると、

⑥

Chimpanzees and bonobos have intelligence of a higher order, but it is not developed to the same extent as we speak language. Our speech carries our thoughts and provides us with the power of communication. It also makes it possible for us to have culture unattainable by other animals, and it can be conveyed by the written form of language.

語彙

intelligence of higher order 「高いレベルの知性」

to the same extent as … 「…と同じ程度に」

unattainable by … 「…には実現不可能な」

convey 「伝達する」

なども考えられます。

そもそも英語と日本語は異なる言語ですので、同じように表現できないところが多々あるわけです。ですから、意味をくみ取って、できるだけ近い表現にするというのがコツです。繰り返しますが、英語の基本は一文一事、そしてSVOを中心に考えるべきです。

とにかく、解答は一通りではないということです。英語ができるようになればなるほど、英訳の表現が豊かになります。それには、何度も何度も書いて練習することと、できればよい先生に見てもらふことが必要です。まず、①や②の解答例の英文ができるようになることが肝心です。では、頑張りましょう！

では、第一回はこれで。第二回は下線部和訳の予定です。